

退職者連絡会

第22号
(発行・編集)
J R九州労組
退職者連絡会
鹿児島地区本部

始良地区第6回親睦交流会 和気あいあいの中、成功裡に終わる

去る八月五日、午後六時三〇分より昨年同様、松元春夫副会長の自宅（始良市平松）において第6回親睦交流会が開催されました。

始良市居住の会員、来賓ら十七名が出席する中、松元春夫副会長の司会で開会。

まず、地本幹事会を代表して中村紘一会長が挨拶「参議選も初の野党統一候補として、下町かずみ氏を擁立し皆様の協力を得て闘ったが、惜しくも次点。比例区の川合孝典氏は民進第5位で当選を果し、前回の屈辱を晴らした。また各地域で交流会も行われ親交を深めている。これからの人生を楽し



むためにも健康が第一。日々の健康管理を」と激励。その後始良有志会の羽月幹男会長、地元の桃木野幸一県議、組織内の上村親市議が活動報告等を兼ねた挨拶を行いました。始良地区有志会の葬祭互助の会計報告を福永輝一事務局長が行い、承認された後、歓談に入りました。

なお懇親会の仕出しも会員の子弟が経たりました。事務局より「ライフスタイルが各々の立場から披露されました。事務局より好会を結成する旨、提案があり、当面十二名で結成することとなりました。

宴が一段落したあと近況報告を兼ねて自己紹介。日常的な



営する「始良ほっともつと」から取り寄せたことも披露され、合せて利用促進のお願いもありました。

介護保険制度の充実を申し入れ 鹿児島県退連

県退職者団体連合は、八月二六日第3回幹事会を市内で開催し、「介護保険制度の充実を求める要請書」を県内各市長に申し入れることを確認しました。

これは、政府与党の経済財政運営と改革の基本方向（骨太2015）において、社会保障費の伸びを2018年までの3年間で、1兆5千億円（年間5千億円）に抑える方針を打ち出し、さらなるサード給付の削減と自己負担の増加を進めようとする事に対し、協力を要請するものです。

その内容は、①第7期の高齢者福祉・介護保険事業計画の策定や地域包括支援センターの運営に関する各種委員会の委員に、被保険者である県退職者団体連合の当該市の代表者を

参画させること。②介護労働者の賃金改善に資する介護補償の処遇改善加算などを国に要請すること。

③新総合事業への移行にあたって、予防訪問介護・予防通所介護サービスの運営について、市民・利用者には十分な説明を行い、利用者の負担増にならないよう運用すること。④認知症の人が、本人の意思が尊重され、認知症高齢者に起因する損害の発生を防止するための社会的な施策と家族に過剰な賠償責任を負わせない制度の確立を国に要請すること。⑤過疎が進む地域において高齢者や障がい者の生活に必要な利便性のある移動手段の確保を社会保障の一環として位置づけ、まちづくりと一体となつた地域交通活性化・再整備の施策を推進すること。⑥介護保険における要介護1・2及び要支援1・2の生活援助と福祉用具貸与等の自己負担化、65〜74歳の

自己負担割合の引き上げ、利用者負担の策定基礎への資産付加を実施しないよう国に要請すること。⑧医療制度における70歳以上の高額療養費の月額上限引き上げ、75歳以上の医療費算定の自己負担2割化、所得に加え資産を算定基礎とした患者負担化を実施しないよう国に要請すること。

クラウンドG大会 & パーベキュー交流

日時 十月四日（火） 十時十五分

場所 重富海岸（なぎさ公園）

参加費 2000円

※ふるってご参加ください。

以上を要請を11月末までに文書にて回答するよう求めています。

また、県知事に対しても同等の要請書を10月末ごろに連合鹿児島と協議し、提出することにしていきます。